

## 聾学校の学習・生活集団の編成について

### 聾学校の建築計画に関する基礎的研究2

正会員 ○ 平根 孝光 \*1  
吉田 あこ \*2  
桜庭 晶子 \*3  
今井 計 \*3

#### □研究の目的

聾学校は、一般学校に要求される施設諸条件はもとより、聴覚障害に対する施設・設備面での配慮が必要となる。特に、教科学習時の聴覚障害に対する補償は、残存聴力の活用が教育に有効であることから、教育支援機器として集団補聴設備を使用することが多い。この場合、学習集団等の集団編成状況を知る必要がある。

聾学校における集団は、大きく分けて教科学習時の集団である学習集団と、それ以外の昼食、朝の会、帰りの会等の生活集団及び寄宿舎生活集団に分けられる。

本報告では、聾学校の幼稚部・小学部・中学部における学習・生活集団について分析し、聾学校の建築計画に資することを目的とする。

#### □調査の方法

調査対象校は関東地区にあり、学校の概要は、設置学部が幼稚部・小学部・中学部・高等部の4学部、在籍者数121人、教諭(養護教諭を含む)50人、講師等(実習助手、非常勤講師等を含む)14人であり、4学部設置タイプ校における標準を少し上回る学校である。調査は、平成3年9月、調査票記入方式で3週間留め置き回収したものである。

#### □各学部の集団編成について

まず、教育課程についてであるが、言語指導、残存聴力を活用する聴能訓練を中心とした養護・訓練という特別な指導領域が加わる以外は、一般学校と同じ教科を学習しているといえる。(表-2・3・4)

その学習集団及び生活集団は、クラス単位を基本とするものの、つぎのような多様な集団編成がみられる。  
①幼稚部の集団は、幼児・幼児の母親・教師の集団で構成され、教師はクラス担任以外に副担任が配置される。生活集団の編成については、学年通しで行われるものもあるが、クラス単位で担任を中心に行われている。一方、学習集団では、基本的にはクラス単位で行われているものの、学習が遅れているなど必要に応じ、同一授業時間内において個別に取り出して学習指導を行う「取り出し学習」が、頻度高く行われている。

年間授業時間数の多い「習慣活動」教科をみると、4オクラスの場合、毎回「取り出し学習」指導があり、幼児、教師、母親の3名の小さな学習集団が教室のコーナー・個別指導室等で、母集団から離れ授業を行っていることがわかる。(表-5)

②小学部では、低学年のみ幼稚部と同様に母親集団が

表-1 幼児・生徒数と学級副担任数

学部	幼稚部					小学部						中学部			計		
	3才		4才	5才		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年			
学年	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	1	17
学級	6	6	4	5	4	4	5	4	6	7	6	5	4	2	6	6	82
幼児数(人)	6	6	4	5	4	4	5	4	6	7	6	5	4	2	6	6	82
学級副担任(人)	1		2			1	1		1		1			1	1	1	11

表-2 幼稚部の年間授業時間

	(時間)							計
	習慣活動	朝の会	経験	話し合い	養・訓	聴能	計	
3才	270	33	54	63	228	72	720	
4才	216	54	54	108	216	72	720	
5才	276	120	72	216	216	72	972	

\*養訓は養護・訓練

表-3 小学部の週間授業時数

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	養訓	特活	計
1年	6	1	4	2	2	2		3	1	3	1	25
2年	7	1	4	2	2	2		3	1	3	1	26
3年	7	2	5	2	2	2		3	1	3	1	28
4年	7	2	6	2	2	2		3	1	2	2	29
5年	6	2	6	2	1	2	2	3	1	2	2	29
6年	6	2	6	2	1	2	2	3	1	2	2	29

\*養訓は養護・訓練、特活は特別活動

A study on formation of learning group  
in the Deaf School

5166

A basic study on architectural planning for the Deaf School 2 HIRANE Takamitsu et al.

加わる以外は、児童と教師（副担任を含む）の集団構成であり、3学年合同、2学年合同、学年合同等あるものの、クラス単位が基本となっている。しかしまた、教科によっては「取り出し学習」が随時行われている。

③中学部の集団編成もクラス単位が基本であるが、「取り出し学習」が国語、養護・訓練、数学、英語、理科とかなりの教科にみられる。また、その「取り出し学習」が行われる時に使用される部屋は、個別指導室、同じ教室のコーナー、集会室、養護・訓練室、理

科室等を利用する形で授業が行われている。（表-7）

□まとめ

クラスが集団編成の基本単位ではあるものの、「取り出し学習」が随時行われており、その頻度も高いものとなっている。さらに、この「取り出し学習」が行われる時は、クラスの中で2つ以上の学習集団に分かれることになるばかりでなく、一般教室と同様の集団補聴設備を備えた学習場所が、「取り出し学習」時の小さな集団にも必要となることがわかった。

表-4 中学部の週間授業時数

	1年	2年	3年
国語	5	4	4
社会	3	4	4
数学	4	4	4
理科	3	3	3
英語	2	2	2
音楽	1	1	1
美術	2	2	1
保体	3	3	3
技家	2	2	3
道徳	1	1	1
養訓	2	2	2
特活	3	3	3
計	31	31	31

表-5 幼稚部の集団編成

学年	クラス	生活集団		学習集団					特別活動				
		朝の集会	昼食	習慣活動	朝・朝の会	経験	話し合い	養護訓練					
3才	6	1	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1
	6	1	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1
4才	4	1	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1
	4	1	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1
5才	5	1	1	5	1	5	1	5	1	5	1	5	1
	4	1	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1

表-6 小学部の集団編成 \* □内は幼児数、外は教師数。有は「取り出し学習」。

学年	クラス		生活集団			学習集団							特別活動					
	普通	重複	昼食	朝の会	みんなの時間	国語算数	社会理科	音楽図工	家庭	道徳	体育	養護訓練						
1	4	1	4	2	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1		
2	5	1	5	1	135	5	1	5	1	5	1	5	1	5	1	9	3	
	4	1	4	1	207	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	
3	6	1	6	2	144	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	
4	7	1	7	2	7	1	7	1	7	1	7	1	7	1	7	1	7	1
5	6	1	6	2	238	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	
6	5	1	5	1	166	5	1	5	1	5	1	5	1	5	1	5	1	
	4	1	4	1	10	4	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	10	3

表-7 中学部の集団編成

学年	クラス	生活集団		国語養訓	数学	学習集団					特別活動			
		昼食HR	オフタイム			社会理科	英語	技術家庭	道徳音楽美術	体育				
1	2	2	3	1	1	1	1	1	1	1	1	高 等 部 と 同		
2	6	6	2	14	8	1	1	1	1	1	1		14	2
3	6	6	3	1	1	1	1	1	1	1	1		1	1
取り出し学習時の使用場所				集会室 副指導室	養訓室 理科室	教室 コーナ	教室 コーナ							

本研究は、平成3年度文部省科学研究費（一般研究C代表平根孝光）を受け、調査に当たって養教育の小畑修一教授を共同研究者として参加を得て行った。

- \*1 筑波技術短期大学助教授
- \*2 同 教授
- \*3 同 助手